

問1 清掃工場でごみを燃やしたあとに残る「灰」は、最終的にどうなりますか。

1. 肥料として農家で使われる      2. また燃やして電気を作る      3. 最終処分場（埋め立て地）に運ばれる      4. そのまま川や海に流す

問2 家や学校で使ったあとのよごれた水は、どこへ運ばれてきれいに処理がおこなわれますか。

1. 下水処理場      2. 浄水場      3. 給水所      4. ダム

問3 清掃工場で、ごみを燃やしたときに出る熱は、どのように利用されていますか。

1. 電気を作ったり、温水プールを温めたりする      2. 畑にまくための肥料にする      3. ごみを燃やすための燃料にする      4. 新しいプラスチック製品の材料にする

問4 私たちがごみを減らすために、まず「リデュース（ごみそのものを減らす）」を意識することが大切なのはなぜですか。

1. リサイクルをするよりも、リデュースのほうが面白いから      2. ごみを出したあとの処理が一番楽だから      3. ごみそのものが出なければ、そのあとの処理の手間やエネルギーもいらなくなるから      4. リサイクル工場が足りなくなっているから

問5 料理をする時の火や、お風呂のお湯をわかす時の熱など、生活に必要なエネルギーをすべて「電気」だけでまかなう住宅のことを何といいますか。

1. エネルギー工場      2. スマートハウス      3. エコ住宅      4. オール電化

問6 私たちが使った水を、わざわざ下水処理場できれいにしてから川や海にながすのはなぜですか。その一番の理由を選びましょう。

1. 地下の温度を一定に保つため      2. 雨水をためて飲み水を作るため      3. 川や海の生き物や、水のきれいな環境を守るため      4. 下水道管のつまりを防ぐため

問7 清掃工場でごみを燃やすとき、空気中に有害な物質が広がらないようにするために、どのような工夫をしていますか。

1. ごみピットの中に空気が入らないようにしている      2. クレーンでごみを細かくしてから燃やしている      3. はいガス処理装置で有害な物質を取り除いている      4. ごみを燃やす前に水で洗っている

問8 台所から出る油や生ごみをそのまま下水道に流してはいけない一番の理由は何でしょう。

1. 下水道管の掃除をする人が、油や生ごみの処理を嫌がるから      2. 下水道管が詰まったり、川や海が汚れたりする原因になるから      3. 下水処理場は、どんなものでもすぐに分解してきれいにできるから      4. 油や生ごみは、下水道料金を高くするものになるから

問9 家電リサイクル法という法律がある理由として、最も適切なものはどれですか。

1. 古い家電を修理して、新しい製品を売らないようにするため      2. 家電メーカーが新しい製品をたくさん作るようにするため      3. 電気代を安くするために、古い家電を早く捨てさせるため      4. 家電をリサイクルして、中の部品や材料を資源として有効に使うため

問10 使い終わったものを、一度分解したり溶かしたりして「原料」に戻してから、新しい製品に作りかえることを何といいますか。

1. リユース      2. リフューズ      3. リデュース      4. リサイクル

問11 原子力発電で、電気を作るための燃料として使われるものは何ですか。

1. 石油      2. ウラン      3. 天然ガス      4. 石炭

問12 川から取り入れたばかりの水は、そのままでは飲めません。安全に飲めるようにするために、水をきれいに処理する施設のことを何といいますか。

1. 取水所      2. 配水池      3. ろ過場      4. 浄水場

問13 発電所からつくられた電気を、遠く離れた場所まで運ぶために使われるものはどれでしょう。

1. 火力発電      2. 送電線      3. 太陽光パネル      4. 配水管

問14 使い終わった後に、もう一度新しい製品の材料として作り変えることができるごみのことを何と言いますか。

1. 有害ごみ      2. 粗大ごみ      3. 資源化物      4. 不燃ごみ

問15 ある町では、何年もかけて住む人の数（人口）がふえ続けています。このとき、町の水の使用量はどのように変わっていると考えられますか。

1. 水の使用量は変わらず、ずっと一定である      2. 人口がふえると、水の使用量は自動的に半分になる      3. 人口がふえた分だけ、水の使用量も必ずふえる      4. 節水の工夫などにより、水の使用量は減ったり、横ばいになったりすることがある

問16 新聞や雑誌などの紙類を正しく分別して出すと、何に生まれ変わることが多いでしょう。

1. ガラスびん      2. トイレトーパー      3. 新しい新聞紙のインク      4. プラスチックの容器

## 答え合わせ・解説 No.3

問1	<b>答え 3</b> 最終処分場（埋め立て地）に運ばれる	ごみを燃やすと、燃え残った灰が発生します。この灰の一部はセメントの材料などにリサイクルされますが、リサイクルできない残りの多くは「最終処分場」と呼ばれる埋め立て地に運ばれて埋められます。
問2	<b>答え 1</b> 下水処理場	私たちが使った水は、地下にある下水道管を通して「下水処理場」へ集められます。そこで水をきれいに処理してから、川や海へ放流することで、地域の水環境を守っています。浄水場は、逆に川の水をきれいにして飲み水を作る場所なので、混同しないようにしましょう。
問3	<b>答え 1</b> 電気を作ったり、温水プールを温めたりする	清掃工場でごみを燃やすときに出る熱（余熱）は、発電をして工場や地域の電気として使われたり、温水プールや近くの施設にお湯を送って温めたりするのに利用されています。
問4	<b>答え 3</b> ごみそのものが出なければ、そのあとの処理の手間やエネルギーもいらなくなるから	ごみが出てからリサイクルするのも、実は多くのエネルギーや手間がかかります。一番の解決策は、そもそもごみを出さないように工夫すること（リデュース）です。
問5	<b>答え 4</b> オール電化	オール電化とは、家の中で使うエネルギーをすべて電気にまとめる仕組みのことです。台所での料理や、お風呂の給湯にガスや灯油を使わず、電気のみだけで生活を行うのが特徴です。
問6	<b>答え 3</b> 川や海の生き物や、水のきれいな環境を守るため	使った水をそのまま川や海にながしてしまうと、水がよごれて生き物が住めなくなったり、環境が悪化したりしてしまいます。そのため、下水処理場でしっかりと汚れを取りのぞき、環境への負担を小さくしてから外にながす仕組みになっています。
問7	<b>答え 3</b> はいガス処理装置で有害な物質を取り除いている	ごみを燃やすと煙やガスが発生しますが、そのまま外に出すと環境によくありません。そのため、清掃工場には「はいガス処理装置」があり、有害な物質をしっかりと取り除いてから、きれいな空気にして外へ出しています。
問8	<b>答え 2</b> 下水道管が詰まったり、川や海が汚れたりする原因になるから	油や生ごみをそのまま流すと、管の中で固まって詰まりの原因になったり、下水処理場の浄化能力を超えてしまい、十分にきれいにならないまま川や海へ流れて環境汚染を引き起こしたりします。下水道は魔法のように何でも消せる場所ではなく、一人ひとりの意識が大切です。
問9	<b>答え 4</b> 家電をリサイクルして、中の部品や材料を資源として有効に使うため	大型家電には、鉄や銅、プラスチックなど、再利用できる貴重な材料が多く含まれています。これらを単にごみとして埋め立てるのではなく、メーカーが責任を持って回収・分解し、再び材料として使うことで、限りある資源を大切にするためにこの法律が作られました。
問10	<b>答え 4</b> リサイクル	一度バラバラにして原料の状態に戻すことがポイントです。そのままの形で繰り返し使う「リユース」と間違えないようにしましょう。
問11	<b>答え 2</b> ウラン	原子力発電は、ウランという物質が核分裂するときに出る熱エネルギーを利用して電気を作ります。石炭、石油、天然ガスは火力発電の燃料です。
問12	<b>答え 4</b> 浄水場	浄水場は、川から取った水にまざっている泥や汚れを取りのぞき、消毒をして家庭へ送るための大切な施設です。私たちが毎日安心して水を使えるのは、この施設があるおかげです。
問13	<b>答え 2</b> 送電線	発電所からつくられた電気は、長い電線である送電線を通して、街の変電所まで運ばれます。このネットワークがあるおかげで、私たちは離れた場所でつくられた電気を使うことができます。
問14	<b>答え 3</b> 資源化物	スチール缶や新聞紙、ペットボトルなどは、適切に分別して出すことで、再び鉄や紙、服などの材料として生まれ変わることができます。このように、再び資源として再利用できるごみのことを資源化物と呼びます。
問15	<b>答え 4</b> 節水の工夫などにより、水の使用量は減ったり、横ばいになったりすることがある	人口が増えると水の使用量も自動的に増えると思われがちですが、実際にはそうとは限りません。人々が毎日の生活の中で節水を心がけたり、工場などで水を再利用したりする工夫が進んでいるため、人口が増えても全体としての水の使用量は減ったり、横ばいになったりすることがあります。資源である水を大切にできる社会の意識が高まっている証拠です。
問16	<b>答え 2</b> トイレトーパー	新聞や雑誌などの古紙は、回収された後に工場で溶かされ、再び紙製品としてリサイクルされます。その代表的な例が、私たちが毎日使うトイレトーパーです。このように資源を循環させることは、ごみを減らすためにとっても大切なことです。